

P-3-7-05. 退院後訪問調査から見えたもの～調査時期の再検討と今後の課題～

和田 崇¹、徳原 和明¹、二見 信次¹

周南リハビリテーション病院 リハビリテーション部¹

【背景と目的】昨今では地域包括ケアシステムや維持、予防の観点から回復期リハビリ病棟の在宅生活立ち上げ期としての質と地域への参加が求められてきている。当院回りハ病棟では自宅へ退院した患者の在宅生活を把握するために追跡調査を行っており、今回退院後調査を実施するにあたって変化のあった時期を分析したので課題と対応策について報告する。

【対象】平成 27 年 11 月～平成 30 年 5 月に自宅へ退院した 103 名（男性 40 名・女性 73 名、当院外来・訪問リハビリの継続利用者、3 か月継続して調査できなかったものは除く）。

【方法】退院 1 週間後に自宅へ電話連絡、1 ヶ月後に自宅へ訪問、退棟 3 ヶ月後に再度電話連絡を行い、その時点での FIM と介護保険サービス（以下サービス）の利用状況について調査。FIM の点数やサービスの変化がどの時期に多いか焦点を当てて実施。

【結果】FIM の点数の変化は 1 週間で 55 件、1 カ月で 15 件、3 ヶ月で 9 件と退院後 1 週間までの変化が一番多かった。サービスの利用状況が変化したものは 40 件（サービス新規利用開始 17 件、サービス利用頻度変更 14 件、その他 9 件）であり 1 ヶ月～3 ヶ月にかけて変更が多くみられた。